

▽代表監事＝酒井正喜（新、大樹町）
▽理事＝細矢芳己（さらべつ）、多田智（忠類）、笠井安弘（おとふけ）、高橋光秀（さつない）、渡邊善隆（幕別町）、山口良一（豊頃町）、

新津賀庸（以上再、あしよろ）、太田眞弘（新、新得町）
▽監事＝小椋茂敏（再、上土幌町）、八木英光（新、十勝高島）

十勝地区農協組合長会 有塚会長を再任

2014年6月14日

十勝地区農協組合長会は14日、同会の会議を開き、新役員を決めた。会長には有塚利宣氏（82）＝JA帯広かわにし＝を再任した。今期で6期目となる。その他の全役員も再任した。任期は3年。

その他の役員は次の通り。（敬称略）
▽副会長＝辻勇氏（めむろ）、高橋正道（土幌町）
▽監事＝萬亀山正信（ひろお）、西岡悦夫（陸別町）

JA出資法人の動き 陸別と新得設立へ

2014年6月23日

酪農家戸数減など生乳生産を取り巻く環境の厳しさを背景に、十勝管内でJAが出資する酪農法人設立の動きが広まりつつある。管内初の事例としてJA陸別町が早ければ来年度にも、JA新得町も2016年1月稼働を目標にJA出資型法人の設立準備を進めている。家族経営の酪農家の離農も多い中、JA自らが生乳生産基盤の強化に乗り出す。

生乳生産は近年、都府県の生産減少を北海道が補っていたが、道内もここ1年で200戸、十勝も40戸を超える酪農家が離農などで生乳出荷を停止。乳量を伸ばし続けていた十勝も規模拡大では補いきれず、今年に入って生乳生産の前年割れが続いている。

JA陸別町（西岡悦夫組合長）は16年を目標に、JAが出資して町内に3法人の立ち上げを計画している。うち1社は早ければ来年度にも設立する。

計画ではJAが資本金の49%を出資し、残りは法人の構成員となる酪農家が出し合う。酪農家も出資し、主体となって立ち上げるJA出資型の法人は道内で初めて。法人の代表は構成員の酪農家が務める。今後、組合員に参加者を募る。

計画では1法人は500頭規模、他2法人は200頭規模。総事業費は14億円で、農水省の補助事業（強い農業づくり交付金）を活用したい考え。

飼料高騰や環太平洋連携協定（TPP）で先行きが見えず、リスクの大きい個人での投資に二の足を踏む農家も多い中、「JAが起爆剤となる」（同JA）。西岡組合長は「何とかしなければ町がなくなるという危機感があ

る。こうした法人がなければ生き残れない。早急に立ち上げたい」と話している。

JA新得町（伊藤政光組合長）ではJAが50%以内で出資し、子会社として設立する。今後、農家などその他の出資者にも出資を募る。規模は経産牛400頭規模で、従業員4～5人程度を雇用する。詳細は今後詰める。

地域のモデル牧場として生乳を生産すると同時に、新規就農を目指す人や酪農で働くことを希望する人の研修機能も持たせる。

同JAは「農家戸数が減っていけば、共同で利用するTMR（総合混合飼料）センターやコントラクター（農作業受託組織）の既存農家の利用負担も大きくなってしまふ。既存農家に安心して意欲を持って営農してもらうためにも、今JAがやらなければ」としている。

同様のJA出資型法人はJA浜中町にあり、JA標茶町も今年設置する。JA陸別町とJA新得町は道内3番目となる見込みで、管内でも他に設立を検討しているJAがある。道農政部は「JA出資型の法人は今後増えていくのでは」とみている。